

令和6年度第1回ぎふ清流文化プラザ評価員会議 議事録

○日時：令和6年7月25日（木）13:30～15:00

○場所：4階 第3練習室

○出席者：

【評価員】

岩井弘栄、大塚浅子、菅田文子、谷口真由美、野松敏雄、洞田厚男

【指定管理者（公財）岐阜県教育文化財団】

北川常務理事、田中理事兼障がい者芸術文化支援センター長、佐橋事務局長、柳経営管理課長、加納プラザ事業課長、須田県民文化課長、竹内健康長寿課兼施設管理課長

【岐阜県（文化創造課）】

林管理調整監、岩田文化施設係長、後藤文化振興係長、高島文化施設係主事

【評価員会議 議事録（質疑応答・意見）】

<岩井評価員>

資料3（3）に指定管理業務専門職を雇用とあるが、この職員に期待するスキルは何か。

<佐橋事務局長>

施設の予約システムを管理してもらうため、ITに精通した専門職を雇用しました。また会計についても複雑になっておりますので、会計事務に特化した専門職も雇用しています。

<菅田評価員>

自主企画事業のチケット収入実績が別出しの資料となっているが、指定管理業務としての収支には計上されていないのか。

<佐橋事務局長>

平成31年度～令和5年度までの指定管理業務の基本協定を結ぶ際に、財団の経営状況も踏まえ、自主企画事業の収入は財団の収入としてよいことを県に認めてもらう形で締結しました。なお、現在は経営状況も安定していることから、今期の指定管理期間からは自主企画事業のチケット収入も指定管理事業にのみ使用するよう基本協定を変更しています。

<野松評価員>

令和5年度事業計画書と実績を比較した際、計画をしたが実施できなかった事業と、当初の計画にはなかったが、実施することとなった事業がいくつかある。こういった事情があったのか。

<加納プラザ事業課長>

実施団体の都合もあるため、当初は実施できる予定だった事業が主催側の都合で中止となったものや、県からの要請により、急遽実施が決まった事業（ポーランド合唱舞踏公演等）があります。

<野松評価員>

文化事業はすべてが計画的に進まないことは承知しているが、計画と実績の整合性を見る際に、そういった説明があると良い。

<岩井評価員>

別紙29のイベントを見ると、アンケートの結果に25%が「よくなかった」と答えている。ネガティブな意見がかなり高い割合を占めているように感じられるが、こういった分析をしているか。

<須田県民文化課長>

このイベントについては、アンケートの回収率も悪かったことがあり、意見のある人がネガティブな意見であったため、このようなパーセンテージになっていると考えられます。

<谷口評価員>

県民のニーズの観点から、「何に興味があるのか」というアンケート項目を設けた方がよいのではないか。みんなでなにか1つのことをする、という時代でなくなった今、文化の共有・発信の手段も考えた方がよい。

<菅田評価員>

別紙のアンケートの欄を見ると、母数が表記されているものとされていないものがある。先ほどの話にもあったが、母数を見ることで意見の偏りの有無等が推測できるため、記載を統一してほしい。

<大塚評価員>

チケット収入の数と別紙に記載されている入場者数に差があるが、どのような理由か。

＜加納プラザ事業課長＞

チケット収入は、単純にチケットが売れた枚数で、入場者数は実際に公演等を見に来た人の数です。チケットを買ったが来場しなかった人や、来賓・招待客として来場した人等が含まれるため、これらの数は一致しません。

＜大塚評価員＞

例えば、別紙3「杏里 コンサート」については、事業としては300万ほどの赤字となっているが、料金設定はどのように行っているか。

＜加納プラザ事業課長＞

料金については、出演者の実績や、周辺の施設での類似公演の金額を調査し案を作成します。その後、価格設定に関する委員会で承認を受け、正式に価格を設定します。

＜大塚評価員＞

施設のキャパシティにあった単価設定にはしないのか。規模が合っていないように感じる。
(単価を上げた方がいいのでは)

＜加納プラザ事業課長＞

県内の類似施設でどこでも県民が同等の価格で楽しめるよう、周辺施設と同等の価格設定としているため、収支第一の価格にはしておりません。

＜大塚評価員＞

収支のバランスを度外視しているように感じる。本当に県民がそれを望むのか、一度考えてみてほしい。

＜大塚評価員＞

長良川ホールの利用者は増えているが、第3会議室の利用者は減っている。理由は分析しているか。

＜竹内健康長寿課兼施設管理課長＞

第3練習室を利用していた常連客が第1練習室を利用するようになったことから、第3練習室の利用者数が減り、一方第1練習室の利用者は増えているという結果になっています。

＜野松評価員＞

指定管理期間の更新を経て、今年度より新しい期となったわけだが、平成31年度～令和5年度の5年間の反省や、それを踏まえて、今期の5年間でどのように見据えているか、なに

か財団で話し合いはあったか。

<佐橋事務局長>

特にそういった話し合いの場は設けていませんが、評価員の方の意見や、利用者の意見は都度まとめて職員に共有することで運営に反映させています。

<野松評価員>

県の指針に立ち返って事業を行えると良い。現在の事業では、多様性を踏まえた事業が少ないと感じる。障がい者や性的マイノリティの方を対象とした企画をもっと取り入れていくとよい。

<佐橋事務局長>

県からそういった企画の要望があれば取り入れていきます。

<谷口評価員>

指定管理者からのボトムアップ的な提案はできないのか。

<佐橋事務局長>

こういった場において意見があることで届くと考えています。

<大塚評価員>

たくさんの事業を行っているが、HP 等からそれらを読み取るのは限界があり、もったいないと感じる。発信の方法を工夫できると良い。

アンケートについて、ネットで回答できるようにしてみてもどうか。

<加納プラザ事業課長>

以前、QR コードでのアンケートを試みたことがありますが、回収率が悪かったため、紙ベースに戻すこととしました。

<洞田評価員>

アンケートに書かれた要望はどのように処理しているか。

<佐橋事務局長>

それぞれの事業ごとにアンケートをまとめて職員に共有しています。

<洞田評価員>

別紙の内容を見ると事業ごとにアンケート項目が違うようだが、そろえるべきでは？

<須田県民文化課長>

資料にまとめる際にアンケート結果の一部を抽出していますが、実際に行っているアンケート項目はほぼ同じです。

<洞田評価員>

県民のニーズの把握について、現在どのような手法で行っているか。

<須田県民文化課長>

アンケート項目に、「どんな企画を期待するか」という項目を設けており、その内容からニーズを分析しています。

<洞田評価員>

来た人からのアンケートだけでは弱いのではないか。もっと幅広い掘り起こしを期待する。

<谷口評価員>

別紙の記載の方法で、出演者と来場者がどのように文化を共有したのかわかるような資料にしてほしい。